

島しょの都立高校

東京都には伊豆・小笠原諸島があり、全部で7校の都立高校があります。島外に住む方が、島しょ地域の高校に入学するには以下の方法があります。

全日制課程は、島しょに保護者ととともに転居するか、島しょ在住の身元引受人となる6親等以内の親族と同居することが必要です。定時制課程は、入学日までに都内に住所又は勤務先を有することが確実で、入学後も引き続き都内に住所又は勤務先を有することが確実な場合、受検することができます。

また、それ以外の入学方法として、島外生徒受入選考を実施している学校もあります(10月に公表予定です)。

大島

学校名	課程	学科等	1学年定員	備考
大島高校	全日制	普通	80名	
	全日制	併合(農林・家政)	35名	
	定時制	普通	30名	
大島海洋国際高校	全日制	水産(海洋国際)	70名	※1

新島

学校名	課程	学科等	1学年定員	備考
新島高校	全日制	普通	40名	※2

神津島

学校名	課程	学科等	1学年定員	備考
神津高校	全日制	普通	40名	※3

三宅島

学校名	課程	学科等	1学年定員	備考
三宅高校	全日制	普通	40名	
	全日制	併合(農業・家政)	35名	

八丈島

学校名	課程	学科等	1学年定員	備考
八丈高校	全日制	普通	80名	※4
	全日制	併合(園芸・家政)	35名	※4
	定時制	普通	30名	

父島

学校名	課程	学科等	1学年定員	備考
小笠原高校	全日制	普通	30名	※5

※1 大島以外在住者はドミトリ(寄宿舎)に入舎 ※2 式根島の生徒は船で通学 島外生徒受入選考を実施

※3 島外生徒受入選考を実施 しらすな寮に入寮 ※4 島外生徒受入選考を実施 ※5 母島在住者はぎんねむ寮に入寮

(令和6年現在)

伊豆大島は、都立高校のある島の中で、本州から一番近い島です。都心からの距離は120km程で、調布からの飛行機(1日2便)、竹芝からの大型船(1日1便)や高速船(1日3~5便)等で結ばれています。島の中央に三原山があり、カルデラ内の溶岩原や火口などの構成要素により、平成22年にはジオパークに認定されています。気候は、黒潮の影響を受け、年間の平均気温は16℃前後です。椿の咲く時期や夏には、多くの観光客で賑わいます。

大島高等学校

大島高等学校は、昨年創立80周年を迎えました。豊かな自然と温かい人々に囲まれた歴史と伝統を誇る学校です。全日制の普通科と併合科(農林・家政)、定時制普通科の3つの学科があり、今年度は118名の生徒が在籍しています。全日制普通科は、多岐に渡る進路希望に対応し、個々の能力を伸ばす授業を展開しています。併合科は、農業と家庭の基礎となる内容について、実習を多く取り入れた実践力を身に付ける教育をしています。定時制普通科は、ふれあいを大切にした指導を行っており、三修制を選択して3年間で卒業する生徒も増えてきました。

本年度全日制課程では、海外学校間交流推進校、東京の教育資源(森林・林業)を活用した教育活動推進校等に指定され、広い視野をもって国内外で活躍できる人材を育成しています。また、3月に国際ツバキ協会による国際ツバキ大会を開催予定で、本校の国際優秀つばき園に海外の皆様が多数訪れることとなります。



学校サイトはこちら



農林科 カップ焼きそば企業とコラボ



国際交流 ハワイ島ヒロ高校との交流



マラソン大会後富士山を背景に撮影

大島海洋国際高等学校



学校サイトはこちら

大島海洋国際高等学校は大島の南部地域に位置し、波浮港の近くにあります。都立高校で唯一「水産科」のある高等学校です。全校生徒は180名で、そのほとんどは島しょ地区以外の出身です。生徒の多くは寄宿舎に入り、そこから学校に通っています。「海に学び、未来を拓く」をコンセプトに、令和2年竣工の大型実習船「5代目大島丸」を活用し、小笠原や沖縄海域での航海実習を行い、操船技術の習得や船内規律、寄港地でのダイビング等の海洋実習を通じて、実践的な海洋教育を行っています。また、それらを通じて、海洋関連産業の幅広い分野で活躍できる人材を育成します。

部活動では「セーリング部」「端艇(カッター)部」「潜水部」など、いずれも全国レベルでの大会で好成績を収めています。特に端艇部は平成30年度、全国大会で念願の初優勝を果たしました。

卒業後は東京海洋大学をはじめとする海洋関連の大学や、将来の航海士を目指す船員養成学校、国際関係の学部等々幅広い進路選択をしています。



実習船「大島丸」



端艇(カッター)部



潜水部

新島高等学校



学校サイトはこちら

新島は白い砂浜が広がる島で、都心からは160km程離れた、伊豆諸島の中程に位置する島です。調布から飛行機が1日3～4便、竹芝からは大型船が1日1便、高速船は1～2便、さらに下田からのフェリーが週6便と、様々な交通手段があります。人口は2,500人程で、面積は24km²弱、南北に10kmの縦長の形をした島です。

本校は、全日制課程普通科の学校で、温暖で自然に恵まれた環境にあります。平成28年の夏には、白亜の新校舎が完成しました。体育館に冷暖房、全ての教室に大型モニターが完備され、屋上プールや200メートルトラックと野球場のある天然芝グラウンド、屋外型テニスコート等、快適な学習環境が整っています。今年度は新入生8名を含め、32名の生徒が在籍しています。

自ら進んで社会に貢献できる人間、自ら主体的に考え、判断し、行動して課題解決のできる人間、互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間の育成を教育目標に掲げ、教育活動を行っています。また、国際理解教育や地域と連携した教育にも力を入れています。習熟度別授業を行い、基礎学力の定着と個々の能力を伸ばす授業を展開しています。新島中学校と連携し、合同運動会やライフセービング講習会、部活動では、バレーボール部、バスケットボール部、硬式テニス部が合同練習を行っています。太鼓部は中央大会に出場し、毎年好成績を収めています。硬式テニス部は、昨年、東京都新人戦にて5回戦を突破し、本大会に出場しました。



新校舎



ライフセービング講習会



中高合同運動会

神津高等学校

神津島は伊豆諸島のほぼ中間に位置し、都心からは180km、伊豆の下田から55kmのところにある人口1,900人ほどの島です。島の周囲は22km、面積は18.58km²で、新宿区とほぼ同じ大きさです。島の中央には天上山がそびえ、人気のハイキングコースとなっています。神津島へは、竹芝埠頭から大型客船で12時間、高速ジェット船だと4時間弱で毎日1便運航しています。飛行機は、調布飛行場から毎日2～4便運航されており、所要時間は45分ほどです。

神津高等学校は創立53周年目を迎えました。45名の生徒が在籍し、一人一人の希望進路実現に向け、少人数を生かしたきめ細かな指導を実施しています。また、「島民に広く愛され、深く信頼される学校」をモットーに、村民運動会や黒潮祭(文化祭)等の機会を通して村民との交流を深めています。さらに、学校の特色化を図る観点から、神津島ダイビング協会のご協力を得て、「Marine Day」(海でのシュノーケリング及びダイビング)を実施しているほか、島内の方にもご協力いただき、神津島の自然や課題解決を題材にした地域探究に取り組んでいます。神津島は、平成28年度から離島留学生の受け入れを始め、今年度で9年目を迎えます。現在では、13名(男子7名、女子6名)の留学生がしらすな寮から通学しています。



学校サイトはこちら



村民運動会



黒潮祭



Marine Day

三宅高等学校

三宅島は、島の中央に雄山がそびえる火山島で、度重なる噴火によって形成された島です。面積は55.44km²で山手線の内側とほぼ同じ大きさです。年間の平均気温は17.7℃で、30℃を超える日や0℃以下になる日は少なく、黒潮の海に囲まれた温暖多雨な海洋性気候です。国の天然記念物であるアカコッコなど、多くの野鳥が生息していることから、「バードアイランド」とも呼ばれています。都心から180kmの三宅島へは、調布飛行場からの飛行機が1日3便、船は竹芝からの大型船が毎日1便就航しています。

三宅高等学校は、全日制の普通科と併合(農業・家政)科があり、今年度は23名の生徒が在籍しています。本校では、島の海水浴場でSUPやシュノーケリング等のマリンスポーツ体験を実施するなど、島の自然を生かした活動を行っています。近年、海外学校間交流にも力を入れており、進学から就職まで多様な進路に対応する教育を行っています。また、国内トップクラスのボルダリング施設が村内にあり、この施設を活用して、部活動や体育の授業にも取り組んでおります。このほか、村の小・中学校とも連携した取組を積極的に行っています。



学校サイトはこちら



茶摘み実習



海洋教育



ボルダリング

八丈高等学校

八丈島は都心から約290km離れた伊豆諸島南部にあります。八丈島は東京の島で唯一ジェット機が就航(1日3便)している島で、島の中央部にある八丈島空港と羽田空港間の所要時間は約55分です。竹芝からの大型船(1日1往復)もあり、片道約10時間要します。

八丈高等学校は、全日制課程に普通科と併合(園芸・家政)科、そして定時制課程に普通科の3つの学科があり、今年度は、全日制課程126名、定時制課程11名の生徒が在籍しています。

八丈島の理解を深め、八丈島の課題や解決策等を探究する普通科の「八文学」や、専門性に基づいて探究する園芸科・家政科の「課題研究」など、島の伝統・文化や自然、産業等を生かした探究学習の授業があります。地域と協働した特色ある教育を行って島内外から八丈島を支える人材、社会的・職業的に自立した人材、専門人材、起業家・創業家の育成を目指しています。

アメリカのハワイ大学ヒロ校との連携、Waiakea高校との姉妹校連携や東京都国際交流コンシェルジュを活用してのアジア各国との国際交流をはじめ、ICTやAI教材の積極的な活用により、国際社会で活躍する人材等の育成を目指して魅力ある教育活動を推進しています。また、島内の生徒のほかに島外の中学校から入学した生徒が全日制課程や定時制課程で学んでいます。



ハワイ大学ヒロ校とのオンライン交流



八文学の島民会議の様子



定時制の探究学習成果発表会



学校サイトはこちら

小笠原高等学校

小笠原高等学校のある父島は、平成23年に世界自然遺産に登録された、様々な動植物の固有種を育む小笠原諸島にあります。都心から約1,000km離れ、緯度は沖縄県北部とほぼ同じです。父島へは東京の竹芝客船ターミナルから父島二見港まで、おがさわら丸が、6日に1便程度の割合で片道24時間をかけて航行しています。父島の面積は23.45km²と、千代田区のほぼ2倍で、人口2,100人ほどの島です。父島には小学校と中学校が1校ずつあり、約50km離れた母島には1校の小中学校があります。小笠原唯一の高校である小笠原高等学校には父島と母島の中学校を卒業した生徒57名(内1名は留学中)が学んでいます。また、母島の生徒のための「ぎんねむ寮」が完備されています。

全日制普通科の本校では、「理数教育研究校」として、兄島の環境に関する調査・研究を行っています。また、環境省・林野庁・村環境課等と連携した世界自然遺産の地における自然保護活動や、ウィンドサーフィンの授業等、特色ある教育活動を行うとともに、国立大学進学から専門学校まで多様な進路に対応した教育に取り組んでいます。また歴史的に絆の深いグアム島ジョージ・ワシントン・ハイスクールとの姉妹校を提携するなど、グローバル人材の育成に向けて歩み続けています。



小笠原高校 校舎 生徒入口



ウィンドサーフィン



兄島野外活動(兄島台地)



学校サイトはこちら